第15回

地域の防火防災功労賞

〈事例集〉

平成31年1月

主催 東京消防庁

共催 公益財団法人東京防災救急協会

公益財団法人東京連合防火協会

第 15 回

地域の防火防災功労賞
事例集

平成 31 年 1 月

主催　東京消防庁

共催　公益財団法人 東京防災救急協会
　　公益財団法人 東京連合防火協会

最優秀賞（3事例）

港区立港南中学校（港区）　地域で育てる防災の即戦力　…1

西戸山タワーガーデン管理組合（新宿区）　高層マンションにおける防災隊の取り組み　…2

戸倉地区防災・安心地域委員会（あきる野市）
出来ることから手を付ける防災活動
～ドローンを活用した中山間地における孤立化対策～　…3

優秀賞（5事例）

秋葉原東部町会連合会、社会福祉法人三井記念病院（千代田区）
連合町会と病院が一体となった防火防災体制　…4

雪ケ谷八幡神社・雪谷地区六自治会（大田区）　神社が結ぶ防火防災の輪　…5

蒲田東地区自治会連合会（大田区）　まもりんピック蒲田東（防災運動会）　…6

西荻窪町会防災会（杉並区）　自助、共助、近助！～最大の防災は近所づきあい～　…7

株式会社フジクラ不動産カンパニー（江東区）　防災デリ in 深川ギャザリア　…8

優良賞（11事例）

佃連合町会（佃一丁目会，佃二丁目町会、佃三丁目町会）（中央区）
長年にわたる地域一体となった防災行動力の向上への取組み　…9

港区青少年対策赤坂地区委員会（港区）
生徒・児童を共助の担い手に育成するための防災訓練　…10

品川区立日野学園（品川区）　小中学校が拠点となった地域防災力の向上への取り組み　…11

出石町会（品川区）　黄色の鉢巻で安否を確認！出石の安全安心への取組　…12

大森三丁目連合町会　市民救護隊（大田区）
防災「最前線」地域の安全・安心をまもる市民救護隊　…13

信濃町地域防災コミュニティー（新宿区）
町会・商店会・事業所が連携した地域防災力向上の取組　…14

中野区町会連合会　北部地区（中野区）
楽しく防災行動力を上げる !! 町会自治会対抗レスキュー大会　…15

馬橋南 自治会（杉並区）　自分たちのまちはみんなで守る！　…16

王子本町二丁目町会（北区）　地道に取り組む防災の絆　…17

堀切四丁目北町会　堀切四丁目中町会　ミヨシ油脂㈱（葛飾区）
住民ファースト！～地元企業の働きかけによる町会との応援協定～　…18

東京都立立川ろう学校（立川市）
ろう学校と近隣自治会等が一丸となって取り組んだ地域の防災対策　…19

第 15 回地域の防火防災功労賞概要

■ 概　要

「地域の防火防災功労賞」は、阪神・淡路大震災から 10 年目の節目にあたる平成16年6月に、地域防災力の向上を図ることを目的として創設されました。町会・自治会、事業所等の防火防災に関する取組について募集し、表彰することで広く都民に紹介するものです。

今年も、地震災害、風水害等の自然災害に関する町会・自治会等が主体となった地域の取組や、地域が実施する住宅防火に関する取組を募集しました。

■ 募集テーマ（平成 30 年度）

地震、風水害等の自然災害、住宅防火に関する町会・自治会等の地域主体の取組全般を対象とします。具体的な取組例は次のとおりです。

1　防災行動力の向上に関する取組
2　震災対策に関する取組
3　総合防災教育に関する取組
4　災害時要援護者の安全対策に関する取組
5　住宅防火対策や放火対策に関する取組
6　防災情報の収集・伝達体制の整備に関する取組
7　その他の取組

■ 募集対象

1　自主防災組織（町会、自治会等）
2　ボランティア団体等（PTA、NPO 法人を含む）
3　事業所（保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関を含む）
4　その他の団体

地域で育てる防災の即戦力

最優秀賞　港区立港南中学校（港区）

【経　緯】

当校が所在する東京都港区芝浦港南地区は、大規模集合住宅の建設ラッシュに伴い、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口が全人口の約 7 割を占め、増加率では 0 歳から 14 歳までの年少人口が最も高い地域となっている。首都直下地震等の大規模な震災が日中に発生した場合には、生産年齢者が不在の中、“自分たちのまちは自分たちで守る”行動を余儀なくされることから、当校では平成 21 年の港区総合防災訓練で、地域住民、事業所、教育機関等で防災活動を連携して行っている「港南防災ネットワーク」と当校生徒とが連携した避難所運営訓練を試験的に実施し、実践的かつ効果的な訓練が行われ、その成果は高く評価された。当校生徒の活動は、地域防災の貴重な即戦力になると地元からも高く評価され、以降、港区総合防災訓練では運営機関として参加し、避難所運営訓練や参加者への各種訓練指導を実施している。

【活動内容】

1　平成 22 年からは、毎年 11 月に実施されている港区総合防災訓練（港南会場）において、港南中学校の全生徒が指導者となり、地域住民約 3,000 人に対し、各種訓練を指導するとともに、自分達の後輩となる港南小学校の生徒に対しても指導を行っている。

そのため、約 1 か月前には高輪消防署、高輪消防団及び町会・自治会の役員の協力のもとプレ防災訓練を行い、知識・技術のみならず、指導方法についても習得し、その後も本番まで反復訓練を行っている。

2　阪神・淡路大震災を契機に災害時における河川舟運の有効性が注目されたことから、平成 26 年から毎年 4 月に運河クルーズと称し、1 年生を対象とした運河及び各種防災関連施設の視察を行っている。防災船着場から実際に舟に乗り、町会・自治会役員による解説で水門の構造、災害時における運河の有効性、運河に囲まれ海辺に面した当地域の特性について学習している。

3　平成 28 年から毎年 8 月に、より実災害に即した訓練を目的とし、区民避難所である当校で 1 泊 2 日の宿泊訓練を実施している。学校休校日の 15 時に首都直下地震発生という想定で、避難所の設営訓練、炊き出し訓練、各種防災技術訓練を行っており、毎年約 30 名の生徒、教職員が参加し、高輪消防署、高輪消防団、港区、町会・自治会等と連携し、実施している。

4　平成 29 年 2 月に、1 年生を対象に防災まち歩きと称して、高輪消防署、高輪消防団、港区、町会・自治会等と連携し、当該地区にある各種防災関係施設を歩いて回り、当該施設を見学して説明を受け、レポートを作成し、学習に励んでいる。

地域住民及び後輩に対する応急担架指導

防災まち歩きによる施設見学

高層マンションにおける防災隊の取り組み

最優秀賞　西戸山タワーガーデン管理組合（新宿区）

【経　緯】

新宿区は約 8 割の区民が集合住宅に居住しており、町会の防火防災訓練参加率は約 14% という背景がある。平成 23 年 3 月の東日本大震災を契機に、高層マンションとして必要な共助体制の整備が必要と認識され、もともと防災活動に取り組んでいた棟内の自治会と、マンション管理組合が協力して、新たに管理組合の下に「防災隊」を組織化し、震災発生時の防災対策だけでなく、平時での要配慮者の見回り等に取り組んでいる。

【活動内容】

1　情報誌の発行と防災備品の整備

管理組合員及び棟内居住者に対して防災に関する情報誌「防災 NEWS」を毎月配布し、時機をとらえた情報発信をしている。また、ハード面として防災備品を整備し、防火防災訓練時に展示・説明することで、住民に周知させ、取り扱えるよう訓練している。

2　毎月一回の「防災会議」の開催

防火防災訓練の企画立案・準備、防災備品等の整備、購入、防災対策規約、マニュアルの見直し、高齢化対策等、各種課題の抽出と解決策の検討を実施している。

3　「防火防災訓練」等の実施

防災マニュアルを配付するとともに、「無事ですシート」を活用した安否確認訓練、震災時を想定した階段避難器具（イーバックチェア）操作訓練並びに屋内消火栓操作及び放水訓練、消防職員、消防団員、災害時支援ボランティアによる AED 取扱い訓練、三角巾、止血法等の応急救護訓練及び初期消火訓練を実施している。

4　年二回の「災害時連絡訓練」の実施

NTT による災害伝言ダイヤル・伝言板のセミナーを実施している。

5　随時の「サポートプラン」の実施

民生委員、警備員（24 時間サポート）による平常時の見回り、声かけ及び要支援アンケート等により高齢居住者の要支援状況について常時調査し、災害時の安否確認等、支援態勢を計画するとともに、個人別の避難計画など個別プランを作成している。

6　「無事です」のマグネットシートを活用した安否確認訓練

平時から要配慮者情報等を集約しておき、訓練時には、「無事です」のマグネットシートを玄関に掲示し、掲示がない住戸に呼び鈴を鳴らして声掛けを行い、防災隊が情報集約している。

7　新宿消防署が開催する防災イベントへの参加

消防活動審査会、救急活動審査会、消防団操法大会等の見学をすることで、消防活動への理解を深め、防災意識の向上を図っている。

住民同士で応急救護

敷地内での傷病者搬送訓練

出来ることから手を付ける防災活動
～ドローンを活用した中山間地における孤立化対策～

最優秀賞　**戸倉地区防災・安心地域委員会（あきる野市）**

【経　緯】

あきる野市は、大規模災害時に各地域の特性にあった災害対応を可能とするため、平成 20 年 12 月、旧町村 7 地区毎に「防災・安心地域委員会」を設立した。その一つである「戸倉地区防災・安心地域委員会」は、戸倉東部自治会及び戸倉西部自治会を主体として、消防団や各種団体等が連携し、災害に強いまちづくりと地域コミュニティの活性化を図っている。

この地域は、川沿いと山沿いの急傾斜に挟まれ、豪雨時や震災時に孤立化が起こりやすい地形である。かつて、豪雪による倒木によって地域の一部で交通遮断や停電が発生し、孤立した経験があることから、「戸倉地区防災・安心地域委員会」では、地域住民の自助・共助体制の強化を図るとともに、あきる野市のドローンを活用した地域の孤立化対策に取り組んでいる。

【活動内容】

1　災害時の地域の孤立化対策

(1)　あきる野市と連携し、ドローンを活用した救援物資の輸送訓練、空撮による孤立住民の確認訓練を積極的に実施し、ドローンの災害時における実用化に向けて取り組んでいる。今後は離発着可能場所を検証し、各地域ごとに 2 箇所以上の緊急物資離発着場所を選定していく。

(2)　地域の給水拠点にて応急給水用資器材を活用した給水訓練を実施するとともに、訓練に参加した住民へ背負い式水袋を配布し、各自 6 リットルの飲料水を自宅に搬送する体験訓練を毎年実施している。

(3)　地区内 6 地域に簡易型携帯無線機を配備し、災害時に各地域の情報を集約し、関係機関に防災無線で伝達する連絡体制を確立した。

2　災害時の安否確認対策

(1)　毎年の防災訓練時に自治会組織を活用した安否確認訓練を行い、安否確認行動が定着した。平成 25 年からは安否確認旗を導入し、平成 29 年の訓練では、89.4% の掲出があり、確認時間の短縮が図られたところである。

(2)　平成 21 年から、自治会非加入世帯も含めた地域内 98% の世帯から同意を得て、独自の「在住者名簿」を作成しており、災害時や訓練時に活用することで、効率的で短時間の安否確認を行っている。

3　土砂災害危険個所の現地踏査

(1)　戸倉地域の居住地の半数が土砂災害警戒区域内にあることから、平成 27 年から年に 1 回、過去の災害発生場所や危険性の高い地域である 30 か所を踏査し、結果を住民に回覧で周知している。

(2)　現地踏査の結果を行政機関に連絡し、落石防護網を設置させるなどの安全対策を図るとともに、安全・安心まちづくりへの提言・推進に努めている。また、災害を想定した机上訓練も合わせて実施している。

土砂災害を想定した机上訓練

ドローンを活用した救援物資の輸送訓練

連合町会と病院が一体となった防火防災体制

優秀賞　秋葉原東部町会連合会、社会福祉法人三井記念病院（千代田区）

【経　緯】

平成 19 年に神田和泉町町会と社会福祉法人三井記念病院が、災害発生時は相互に協力しようと災害時相互応援協定を締結しました。平成 21 年には近隣の 7 町会も加わり秋葉原東部町会連合会として協定を締結し、災害発生時の協力体制の強化を図っています。

また、平成 25 年から区立和泉小学校も総合防災教育の一環として参加しています。

昨年は約 500 名が参加した大規模な防火防災訓練を実施し、区、消防団及び消防署と円滑な連携を図り、発災から傷病者の収容までの実践的な防火防災訓練を実施しています。

【活動内容】

1　応援協定の締結後は、毎年 1 回、防災週間後に大規模な消防演習と近隣の事業所を含めた防火防災訓練を実施して相互の協力体制を図っています。

（参加規模：町会連合会約 200 名、三井記念病院約 200 名、区立和泉小学校等約 100 名）。

2　平成 21 年には町会連合会と三井記念病院が連携して、初期消火訓練、簡易救助器具を活用した救助訓練、応急救護訓練及び車椅子や担架を活用した搬送訓練など、大規模な防火防災訓練を実施しました。

3　平成 24 年に町会連合会と三井記念病院が一体となった防火防災体制への取組が、東京都の「東京防災隣組」として認定され、意欲的に活動を実施しています。

4　三井記念病院に隣接の和泉公園や都心型複合施設ちよだパークサイドプラザで、付近住民による応急処置訓練等の各種訓練後、医療従事者によるトリアージ訓練を行い、発災から医療機関収容までの一連の流れを、実災害さながらの訓練を実施しています。

5　町会連合会は、毎年、和泉公園において、地域コミュニティの活性化事業として納涼大会を開催し、積極的に付近住民や三井記念病院職員とのコミュニケーションを図っています。

まちかど防災訓練車による消火訓練

トリアージ訓練

神社が結ぶ防火防災の輪

優秀賞　雪ケ谷八幡神社・雪谷地区六自治会（大田区）

【経　緯】

雪ケ谷八幡神社は、雪ケ谷の里の鎮護の神として永禄年間に創建され、この地域を 460 年の長きにわたり、鎮め守ってきた神社である。

当神社が主導する防火防災訓練は、大喪の礼の際に神社等が放火される事例が多かったことから地域の防火防災を高めるために平成 2 年から始まり、神社の氏子区域である雪谷地区六自治会（南雪谷自治会、希望が丘自治会、雪谷石川台自治会、笹丸自治会、東雪谷東中自治会、東雪自治会）や氏子青年会が参加し今年で 28 回目となる。これまでの訓練内容や継続性などから大田区からも評価を受けており、今年はおおた大使（外国人）も参加した。

【活動内容】

1　継続した訓練で自助力の向上

神社と消防署、区防災危機管理課、消防団、災害時支援ボランティアが連携し、避難訓練、初期消火訓練、応急救護訓練、起震車体験、通報訓練等を行い、今年も 300 人超が参加して、地域住民の防災行動力の向上に貢献している。

2　共助力を高める実戦的な訓練

神社の本殿から出火したという想定で、六自治会の市民消火隊がＣ級･Ｄ級可搬ポンプを搬送し、本殿に向かって一斉放水を行い、各自治会が一体となった訓練を実施した。また、神社付近で発生した火災を想定し、神社が自主的に設置している屋外消火栓設備を活用した放水訓練を神社関係者が行い、防火防災訓練を通じて顔の見える関係を築き、地域の共助力を高めている。

3　地元商店街と連携した新たな訓練参加者の掘り起し

地元商店街の協力を得て、2 か月前に実施された商店街の子ども向けイベントにおいて、この訓練と連結するスタンプラリーを行い、子育て世代が参加するよう工夫した結果、当日多くの親子が参加した。

4　おおた大使（外国人）からの情報発信

大田区国際交流担当課の協力のもと、米国、英国、中国、ベトナムの 4 か国のおおた大使等 4 名が防火防災訓練に参加し、区広報紙やホームページから英語、中国語、韓国語、タガログ語、ネパール語の 5 か国語で、外国人が防火防災訓練に参加することの重要性を訴えた。

神社に六自治会集結

外国人による放水体験

まもりんピック蒲田東（防災運動会）

優秀賞　蒲田東地区自治会連合会（大田区）

【経　緯】

1　まもりんピック蒲田東（防災運動会）は、東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、空の玄関口である東京国際空港を有する蒲田として、「世界一安全・安心な都市東京」の名に恥じることなく、地域防災力の向上と地域の顔の見える関係を作ることを目的とした防災運動会として、蒲田東地区自治会連合会の発案により始められた。

　近年は前記の目的に加えこれから起こる可能性の高まっている首都直下地震、地域特性として津波、高潮への対策も踏まえ防火防災への意識の再確認の場所ともなっている。

2　本防災運動会は、19 町会・自治会が協力し平成 27 年度から実施しており、本年度で第 4 回目を迎える。第 1 回目から約 1,000 人を超える参加者があり、第 2 回目の実施では、豪雨による悪天候にもかかわらず、約 1,200 名が参加した。昨年の第 3 回目の実施には、過去最高の約 1,300 名が参加し、老若男女が防災を楽しみながら学べる、大田区を代表する防災イベントとなり、確実に地域に根付いている。

【活動内容】

1　約 4,000 人が収容可能な区総合体育館を会場として毎年 10 月に開催し、老若男女が楽しみながら学べる競技要素を取り入れた防災訓練である。

2　訓練内容は、一定区画内に毛布を敷き、複数人で共有し横になることや、約 8kg の水を搬送するといった避難所の苦労を疑似体験する「避難所はつらいよ」（大人）といった競技の他に、「防災宝探し」（3 歳から小学 3 年生）、「ぼくも私も消防士」（全員参加）、「地区対抗バケツリレー」（全員参加）を実施している。

3　主催者は消防をはじめ、警察及び自衛隊にも協力を要請している。各機関もこの活動に対して様々な工夫をこらした支援や PR を実施している。

4　実施にあたっては、自治会連合会の担当者が、参加者誰もが楽しみながら防災を学べる競技内容を検討するとともに、時間配分、役割分担を明確にし各競技がスムーズに進行するように入念な打ち合わせを行っている。

5　皆で協力して実施する競技を取り入れ、隣近所から自治会区域の広範囲に渡る住民同士の顔合わせも防火防災の基本事項として重要なものととらえ訓練計画を立てている。

バケツリレー

ぼくもわたしも消防士（消火）

自助、共助、近助！
～最大の防災は近所づきあい～

優秀賞　**西荻窪町会防災会（杉並区）**

【経　緯】

西荻窪町会は西荻南３・４丁目全域、JR 西荻窪駅を基点とした中央線の線路と神明通りに挟まれた区域で、駅前の商店街から住宅地まで多様な地域特性を持ち、一部木密地域や道路狭隘区域が混在している。東日本大震災を機に、発災時の迅速な対応を目指し、さらに防災に力を入れている。近隣の町会や商店会と連携し「自助・共助・近助～顔の見える近所づきあい!」を合言葉に日々活動を行い、幅広い世代が無理なく自然に参加できる町会を目指している。

【活動内容】

１　発災時の迅速な対応を目指した防災訓練の継続

「来て、見て、さわって」をモットーに多くの住民に参加してもらうため、毎回場所を変えて年５回以上の訓練（初期消火、救助用資器材操作訓練等）を実施している。参加者の満足度が次につながると考え､防災グッズのお土産配布等毎回工夫している。町会員に限らず通行人や近隣町会の方々等、興味ある人には誰でも声を掛け、参加してもらい仲間を増やしている。

２　震災救援所運営本部会に合わせたミニ訓練の実施

近隣町会、地域住民等と救援所運営本部会を月１回実施。その際、ミニ訓練と称しマンホールトイレ他、各種震災時活用資器材の取扱い訓練や炊き出し訓練、災害時安否確認要領等の協議（「災害時安否確認バンダナ」作成等）を行っている。運営側役員のスキル向上とともに、地域住民にもミニ訓練を広報して参加を促し、訓練参加機会を増やしている。

３　パトロールによる地域の見守り

町会員に限らずパトロール隊員を広く募集し、防火防災防犯の観点から月２回の定期パトロールを実施。また、「わんわんパトロール」と称し愛犬家を隊員登録。隊員には専用ジャンパーや散歩バック、愛犬には骨型反射板を貸与し毎日の散歩とパトロールをコラボさせ、愛犬家を通じて防災の裾野を広げている。

４　防災マップや防災倉庫、防災資器材の工夫

水利情報や防災資器材、AED の位置を記した独自の「防災マップ」を作成し、HP 掲載及び配布している。「まちかど美術館」として防災倉庫に園児の絵を飾り、同時に倉庫の位置をアピール。また、商店街と連携し、在宅率の高い店舗数店に町内の防災倉庫のカギの預り所、有事の際の情報連絡所として依頼し周知している。

５　様々な媒体による情報発信

従来の広報媒体に加え、HP・SNS 発信にも力を入れている。月１回発行の「防犯防災だより」「町会だより」の他､SNS（フェイスブック､ツィッター）でその日に行われた訓練やイベントの様子を写真を交え発信し、より現場に近い雰囲気を伝えて参加しやすい環境作りを心掛け、参加者の裾野を広げることを目指している。

合同防災訓練（初期消火）

独自の防災マップ

防災デリ in 深川ギャザリア

優秀賞　株式会社フジクラ不動産カンパニー（江東区）

【経　緯】

私たちフジクラ不動産カンパニーは、同一敷地内に計７棟のオフィス棟、物品販売棟、飲食店舗棟の不特定多数の来訪者が利用する大規模商業施設（深川ギャザリア）を所有する会社です。

このため、各テナントの従業員はもとより、来訪者の安全確保を目的として当事業所で購入した訓練用資器材を活用し、従業員に対する災害発生時の対応要領の向上を目的として、平成 14 年から毎年 8 回の実践的な訓練を実施してきました。

更に地域貢献の一環として、消防署と連携し地域住民の防災行動力の向上を目的とした防火防災訓練を実施することとしました。

訓練は、現在、課題とされている町会・自治会の防火防災訓練になかなか参加できない子育て世代と当事業所が管理するテナントで自衛消防訓練になかなか参加できない従業員を対象としています。

【活動内容】

1　訓練は、多くの方が参加できることを目的に、深川ギャザリア内にあるイトーヨーカ堂が毎月行っているキャンペーン（ハッピーデー（8 日、18 日、28 日））に併せて、「防災デリ」ののぼりを立て実施しています。

2　訓練内容は、1 日 1 種類とし、初期消火訓練、応急救護訓練、身体防護訓練（起震車体験）をそれぞれ 8 日、18 日、28 日の順に実施しています。

買い物帰りの方などが、1 回あたり 10 分程度で訓練を効果的に体験できるように取組んでいます。

3　訓練参加者にはスタンプカードを配布し、それぞれの訓練を体験した都度ポイントを付与し、全てのポイントが揃ったら、敷地内の協賛店舗から特典を受けられることとしました。

平成 30 年 6 月現在の協賛店舗は 6 店舗にのぼり、訓練参加者の参加意欲の向上と訓練の継続に大きな成果をあげています。

4　訓練は、ランチタイム等の休憩時間にも実施していることから、深川ギャザリア内の各施設の従業員も気軽に訓練に参加でき、その結果、防災行動力の向上にも効果をあげています。

5　平成 29 年 6 月から平成 30 年 5 月までの 1 年間の訓練結果は、訓練参加者が計 3,103 名で、児童等を除いた 1,310 名のうち、本取組のターゲットである子育て世代の 20 代から 40 代の女性参加者が 751 名で 57% と訓練のターゲットとしていた子育て世代の訓練参加に大きな成果をあげました。

また、将来の地域防災の担い手になりうる中学生や高校生も、学校帰りに訓練に参加するなど、日中の地域防災の要として期待される中・高校生世代の防災行動力の向上にもつなげることができました。

身体防護訓練（起震車体験）

協賛店舗で特典受領（左下：スタンプカード）

長年にわたる地域一体となった防災行動力の向上への取組み

優良賞　佃連合町会（佃一丁目町会、佃二丁目町会、佃三丁目町会）（中央区）

【経　緯】

佃連合町会は、歴史ある３つの町会（佃一丁目町会、佃二丁目町会、佃三丁目町会）の集合体であり、東日本大震災を契機に、防災訓練を自助・共助の精神のもと、佃連合町会防災訓練として合同で実施しており、地域一体となって防災行動力の向上に努めています。さらには、連合町会に属していない高層住宅の自治会等にも声を掛け、古くからの地元住民と、新しくマンション等に居住してきた住民との連携を高めていく場となって、佃の各町会は基より、町会の垣根を越えた地域の絆をより強めていく取組みを行っています。

【活動内容】

１　まちかど防火防災訓練

各町会の防災資機材格納庫から資機材を搬送、安否確認後に、一時集合場所（佃中学校）へ移動（避難訓練）し、途上で火災を発見し、模擬消火器による初期消火及びスタンドパイプを活用した消火訓練を実施。さらに倒れている人を発見し、三角巾等による応急手当を実施後、担架により傷者（ダミー）を佃中学校まで搬送した。

２　集合防火防災訓練

各町会が佃中学校に避難完了、人員の報告を行った後、佃中学校の生徒も合流して防災資機材を活用した倒壊家屋からの救出訓練、毛布、竹竿を活用した簡易担架の作成及び搬送要領の救護訓練、スタンドパイプ及びＤ級軽可搬ポンプの取り扱い要領の放水訓練を実施した。

３　防災まつり

防災まつりと称し、子供対象の防災ゲームや給食訓練、消防車両の展示、ミニ防火衣着装体験などを実施し、若い世代の防災訓練への参加を推進した。

４　その他

連合町会防災訓練以外でも、各町会ともに自主防災意識が高く、年末年始の夜間警戒、文化財防火デーにおける住吉神社での古井戸を活用したバケツリレー、消防団及び町会・自治会合同ポンプ操法大会への参加など地域住民が積極的に自助・共助に取り組む活動を実施しています。また、佃三丁目町会は、高齢者のための複合型介護施設『相生の里』と災害時応援協定を結んでおり、有事の際に地域で協力する体制が構築されています。

まちかど防災訓練（スタンドパイプ消火訓練）

集合防災訓練（防災資機材取扱い訓練）

生徒・児童を共助の担い手に育成するための防災訓練

優良賞　港区青少年対策赤坂地区委員会（港区）

【経　緯】

港区青少年対策赤坂地区委員会は平成 4 年以降、港区立赤坂中学校において、震災時における避難所運営を想定した訓練を実施しており、本年で 26 回目となる。

本訓練は、赤坂中学校の生徒が避難所運営に寄与するために、赤坂中学校の校庭に避難してきた近隣児童（赤坂小学校約 400 名､中之町幼稚園約 130 名）及び付近住民に対して炊出し及び配給を行っているものである。

このイベントに対し、消防署も消防団と連携して参加し、赤坂中学校校庭に消火体験、起震車体験、煙体験、結索体験、応急救護体験などといったコーナーを展開して、新たな総合防災教育や防災訓練参加者の掘起こしを行っており、毎年約 1、000 人の児童や地域住民が参加している。

【活動内容】

1　港区青少年対策赤坂地区委員会は昭和 34 年に発足し、社会環境の浄化や青少年健全育成のために活動しているほか、地域の防災行動力の向上にも力を注いでいる。

2　構成員は町会・自治会、各小中学校及び幼稚園並びに各 PTA、福祉施設館長、管内事業所の代表者、民生・児童委員、保護司、港区赤坂地区総合支所、青少年委員、体育推進委員などで構成されている。

3　共助の担い手育成に向けた防災訓練は、例年 12 月初旬に港区青少年対策赤坂地区委員会が主催者となって赤坂中学校グラウンドにおいて実施しており、赤坂中学校の生徒を中核とした炊出し・配給訓練のほか、周辺スペースにおいて消火体験、煙体験、地震体験、結索体験、応急救護体験などの防災訓練、並びに防火衣着装、保存食配布、各種パネル展示などの PR コーナーを展開している。

4　この防災訓練は港区教育委員会後援のもと、赤坂中学校、赤坂小学校、中之町幼稚園、PTA、日赤奉仕団、警察、消防、消防団、赤坂地区総合支所、港区防災課が協力している。

5　例年 12 月初旬に児童・地域住民約 1,000 名が参加する大きな防災訓練であることから毎年 9 月頃より準備をはじめ、参加者が各訓練コーナーを円滑に巡る方法や実施内容・方法について細部にわたる意見を出し合いながら、子供たちを中心とした大規模災害時の地域防災力の向上、共助の担い手育成の推進を図っている。

応急救護訓練

参加者による炊出し訓練

小中学校が拠点となった地域防災力の向上への取り組み

優良賞　品川区立日野学園（品川区）

【経　緯】

品川区立日野学園は、2006 年に品川区立第二日野小学校と品川区立日野中学校の 2 校が統合し、品川区立としては初の小中一貫校である「品川区立日野学園」（以下、「日野学園」という。）として創立されました。

日野学園は、品川区立総合体育館上部に併設され、6 歳から 15 歳の子供たちが毎日一緒に学校生活を送っており、義務教育 9 年間を担う学校として、「自ら考え、自ら学ぶ、思いやりの心で助け合う健康で明るくやりぬき、社会を生き抜くちからを持った社会を支える人材を育てる」ことを目標に、教職員が一丸となって教育活動を行っています。

また、大地震が発生したとき、家屋倒壊や火災等により自宅での生活が困難な方のための身近な施設としての避難所に指定されています。

【活動内容】

1　中学生ミニポンプ隊の活動

品川区では、2008 年から各中学校に D 級ポンプの配備を始めました。日野学園では、ミニポンプ隊を 7・8・9 学年ごとに自主的に編成して、D 級ポンプ操法訓練を実施しています。ミニポンプ隊は、品川消防署員及び品川消防団員の訓練指導を受けながら、規律ある行動はもとより迅速的確なポンプ操法の習得に努め、地域の防災訓練等でその成果を披露しています。

2　防災訓練への参加と地域との連携

日野学園では、年間行事として月に 1 回、学校全体での避難訓練を実施し、毎年秋には学校、PTA、町会、消防団、消防署が参加する合同防災訓練を実施しています。合同防災訓練では、普段訓練している D 級ポンプ操法の披露や、品川消防団員の指導による AED を活用した心肺蘇生法や三角巾を使用した止血法等の応急救護訓練へ全生徒が参加するなど、地域住民とのコミュニケーションを図るとともに、助け合いの精神の向上に努めています。

また、ミニポンプ隊は、毎年実施される大崎第一地区総合防災訓練の D 級ポンプを活用した放水訓練に参加し、地域住民との連携を図っています。

3　品川消防署への職場体験、職場訪問

日野学園では、防災への高い意識を持ち地域防災力の向上に真摯に取り組んでいます。

平成 29 年 7 月、8 年生 5 人が職場体験を、平成 29 年 11 月には 7 年生が職場訪問を実施し、点検、訓練など消防業務の一端を体験したり、消防職員に消防に関する疑問、質問したり、直に消防署と接することで、消防業務を理解しより多くの防災知識の習得を図りました。

ミニポンプ隊によるＤ級ポンプ操法

職場体験の様子

黄色の鉢巻で安否を確認！出石の安全安心への取組

優良賞　出石町会（品川区）

【経　緯】

出石というのは、元禄の頃からの地名であり、現在の品川区西大井三丁目辺りである。町内の道路は狭く蛇行し、見通しが悪い上、袋小路が 20 本以上ある。東京の地震に関する地域危険度測定調査（第 8 回）では、総合危険度 5（47 位）であった。

町会では、4 年前から訓練参加者を募り、防災マップを作成し、今年 4 月に発災時避難行動マニュアルを完成させた。この間、定期的に訓練を実施し、改善を図っている。

【活動内容】

1　発災時避難行動マニュアルの作成（平成 30 年 4 月完成）

平常時の心構え、災害時の避難行動、災害連絡本部組織の編成と役割などで構成されており、黄色い鉢巻による安否確認の仕組みや避難行動要支援者の支援を取り入れている。

2　黄色い鉢巻による安否確認の仕組み

・住民による安否の表示

町内を 3 ブロック、72 組に分け、各組長から各世帯に「黄色い鉢巻」を手配りしている。この黄色い鉢巻を、災害時に玄関等に結び着けて安全を表示する。

・組長による安否確認

各組長は、自身と家族の安全が確保できた後、自組内の各世帯の「黄色い鉢巻」を確認し、安否確認票により「町会連絡本部」に報告する。

・町会連絡本部による情報集約と支援

町会連絡本部では、各組長の報告を集約し、未報告の組については「安否確認班」により確認する。班長等から救助や支援の要請を受けて要員を派遣する。

・訓練の実施

平成 30 年 5 月にマニュアルに基づき訓練を実施して、有効性を確認した。

3　避難行動要支援者の支援（平成 28 年から継続実施）

要支援者の自宅を記した地図を作成し、要支援者との関係も踏まえ担当者を決定した。区が雛形を示している「要支援者個別避難計画書」を一人ひとり作成した。更に、家族同席で支援方法を協議し、家族不在時も考慮するなど要支援者に合わせた支援体制構築に努めた。

4　防災訓練参加者の掘り起し（平成 26 年 7 月から継続実施）

「多くの住民、特に若年層に防災訓練に参加して欲しい」との思いから、学校が夏休みとなる時期のラジオ体操で防災イベントを併催し、新規に 100 名が参加した。現在も多くの子供が参加しており、区民消火隊の横で水鉄砲を構える子供達は町の宝物である。

5　防災マップの作成（平成 27 年 3 月）

自分達の町を防災目線で歩き、防災マップに街頭消火器、AED などの防災資源と長い袋小路、老朽化した万年塀などの危険個所をまとめた。平成 27 年 3 月に防災マップを活用し、車いすやリヤカーでの避難訓練を実施し、要配慮者目線でチェックした。

避難行動マニュアルによる訓練

防災訓練参加者の掘り起し

防災「最前線」地域の安全・安心をまもる市民救護隊

優良賞　大森三丁目連合町会　市民救護隊（大田区）

【経　緯】

当町会は、大田区の中央やや東に位置し、北は環状７号線、東は国道一号線、西はJR線に囲まれ、道幅は狭く住宅と町工場が混同した地区である。大災害時には公助の限界が生じることを念頭に、「自分たちの地域は自分たちで守ろう。」という考えから、昭和49年に市民救護隊が結成された。

昭和55年には、女性ならではの感性や経験が活かせる状況もあるとして、女性の救護隊の必要性を感じ、婦人救護隊を結成するなど、いつか来るその時に備えて、地域の防災リーダーとして、また町会の市民救急隊として、町会の安全・安心のため消防署や消防団の支援のもと応急救護訓練の指導及び大森西地区の普及活動を長年にわたり継続して実施している。

【活動内容】

1　発足当時、11名であった市民救護隊は、町会の市民消火隊の活動支援やお祭り等の行事に救護及び警備班として積極的に参加し、地域に密着した活動や活動を通じて広報を実施することで、現在は50名で活動している。また、災害時支援ボランティアに全隊員が登録をしており、消防署指導のもと、町会が所有している救助資器材や身近な物を使った救出救助にも取り組んでおり、地域の防災リーダーとして活動している。

2　隊員全員が上級救命技能認定を取得しており、隊員たちの意識は高く、毎月の定期活動に加え、消防署との勉強会及び合同訓練を年間２回以上実施している。また地域の医療機関が主催する熱傷や小児等の講座にも参加しており、あらゆる状況にも対応できるよう、隊員の技能及び知識の向上に努め、人材育成にも力を入れている。

3　大田区の学校避難所開設訓練では、大災害が発生したら消防署職員からの支援は期待できないことを念頭に、「災害発生後の応急対策」について、学校及び隣接する町会と連携し、大きな役割を担うなど、地域の防災力の向上に努めている。

また、市民救護隊の活動は、地域から信頼も厚く、消防署及び消防団をアドバイザーとして、近隣及び親交のある町会の防火防災訓練参加者に対して、応急救護訓練の指導や、地元の学校及びPTAと連携して、児童・生徒に命の尊さ講座を支援するなど、将来の地域防災を担う人材育成にも協力している。

4　当町会は、大田区の要配慮者支援組織に登録しており、大災害時、被害を受けやすい災害弱者である要配慮者を守る取り組みとして、市民救護隊は、毎年開催される要配慮者に対する講習会や講座に参加し、要配慮者が災害から守られる町会として対策を考えている。

また、日常生活において、日頃から町会内に住む要配慮者とあいさつを交わすなど交流を深め、安否確認や生活環境の把握や避難路は車いすで通れるか、障害物がないかなど、要配慮者を安全に避難誘導できるよう確認し、要配慮者の視点でまちなかも点検している。

婦人救護隊

避難所運営開設訓練指導

町会・商店会・事業所が連携した地域防災力向上の取組

優良賞　信濃町地域防災コミュニティー（新宿区）

【経　緯】

信濃町地域防災コミュニティーは、地震や台風などによる自然災害及び火災や集団事故などの大規模災害が発生した際、信濃町町会区域内における商店会と地域事業所が町会と連携した活動を行うことを目的としたコミュニティーである。

信濃町町会と事業所との連携した防火防災訓練については、平成 12 年から毎年実施していたところであるが、地域の防災行動力を向上させるためには、個々の意識による自助と相互に応援する共助の融合が重要であり、災害発生時には町会・商店会・事業所が相互に協力しあっていくことが必要であるとの総意により平成 17 年 1 月に応援協定を締結した。

現在は、信濃町町会、信濃町商店振興会、区域内事業所、計 17 団体による地域防災コミュニティーが構築され、自助共助の趣旨を踏まえた、積極的な防火防災訓練を 18 年間継続して行っており、地域防災力の維持向上に成果を上げている。

【活動内容】

1　平成 12 年から毎年 11 月上旬頃に実施している防火防災訓練は、コミュニティーに属する事業所のうち、訓練を実施できる敷地を有する慶応大学病院、聖教新聞社、JR 信濃町駅ビルのいずれかを訓練会場として行っている。平成 29 年度は、平成 29 年 11 月 18 日（土）、慶応義塾大学病院において、消防演習と併せた大規模な防災訓練を実施した。

2　効果的かつ充実した訓練実現に向けて、毎年、コミュニティーに参加する団体により数回の事前会議を実施している。

3　訓練では、訓練会場となる事業所自衛消防隊の活動訓練とあわせ、町会、商店会、事業所、災害時支援ボランティア、消防団が連携し、実際の災害をイメージできるよう、一連の流れで応援活動訓練（救出救護、初期消火、応急救護、炊き出し訓練等）を実施している。

4　応援協定に基づき、慶応大学病院の医師、看護師による応急救護班のトリアージ及び応急救護訓練が実施されている。

5　訓練・消防演習終了後、個別での防火防災訓練・炊き出し訓練が実施され、地域住民を含めたコミュニティー参加者の防災行動力の向上、親睦及び絆の醸成が図られている。

6　訓練実施後は、各参加者が集まり検討会を実施し、訓練内容を検証して次回の訓練及び各事業所の防災計画に反映されている。

7　地域と事業所が、継続的かつ組織的に訓練を行っていることで地域の防火防災に対する意識及び連携を柱とする防災行動力の向上へ向けた取り組みを実施している。

応援に到着した隊による担架搬送活動

消防隊、消防団、災害時支援ボランティア、参加隊による一斉放水

楽しく防災行動力を上げる !!
町会自治会対抗レスキュー大会

優良賞　中野区町会連合会 北部地区（中野区）

【経　緯】

本会は、地域住民の防災・環境等の生活向上や街づくりに寄与することを目的として昭和 33 年に設立され、特に北部地区では町会・自治会単位での防火防災訓練を積極的に実施する等、地域の防災行動力の向上に積極的に取り組んでいます。毎年全町会・自治会が防火防災訓練を実施する中で、「訓練参加者の固定化・高齢化」に危惧する声が高まり、いかに子どもから大人までの訓練未参加者層を訓練に取り込みつつ、地域の防災行動力をさらに向上させるか、という点に焦点をあて、誰でも参加しやすく、楽しみながら訓練を実施することを目的に、新規事業として町会・自治会対抗レスキュー大会を開催しました。

【取組内容】

1　単純明快かつ公平なルールの考案

クイズ、救助、救急、消火の 4 つのセクションを設定し、操法的な要素は一切取り入れず、タイムのみで競う単純明快な競技内容としました。

また、年齢や性別によって付加タイムを設定し、子どもから高齢者まで誰にでも優勝できる可能性を持たせる、公平なルールを設けました。

2　全町会・自治会の幅広い世代への参加促進

1 年以上前より各役員があらゆる機会を捉えて、全町会・自治会にくまなく参加を呼びかけました。1 チーム 3 名編成とし、年齢・性別による参加制限や町会自治会ごとのチーム数の制限を設けずに募集したところ、19 町会・自治会から 33 チームが応募し、11 歳から 80 歳までの幅広い年代の住民が参加しました。

3　身近な防災資器材に触れ合い、取扱いの習熟を図る

各セクションで使用する資器材は、油圧ジャッキや担架、スタンドパイプ等、すべての町会・自治会に配置されている防災資器材倉庫に保管されている資器材を使用し、有事の際に住民が使用する資器材に特化して事前訓練を実施することで、住民の防災行動力の向上を図りました。特にクイズコーナーでは、資器材の名称当てクイズを実施し、全 24 種類の資器材の名前を覚えられるように事前訓練を実施してもらい、倉庫の場所、中身に理解を深めてもらいました。

4　大会及び事前訓練を通じた地域防災行動力の向上

大会に向けての事前訓練を奨励し、地域のニーズにあわせた訓練指導を消防署に依頼したところ、全チームが積極的に訓練を実施しました。また、老若男女問わず幅広い年代でのチーム構成を促し、町会・自治会内でのよこのつながりの強化を図りました。

開会式の様子 (震災犠牲者への黙とう)

ジャッキを活用した救出訓練

自分たちのまちはみんなで守る！

優良賞　馬橋南 自治会（杉並区）

【経　緯】

馬橋南自治会は、東西に延びる JR 中央線と早稲田通りに挟まれ、木造防火造住宅が密集し、大部分が狭あい道路の地域に位置しています。東京都の地域危険度測定調査では、総合危険度５の結果が出ているため、自治会としては、大規模震災発生時には消防自動車が通行不能となり、地域内で発生した火災が延焼拡大してしまうことを最も危惧しています。このため、住民たちは、「自助・近所・共助」の意識の高揚を図りながら、大規模震災発生時の延焼拡大防止対策と負傷者に対する応急救護処置を最重要課題として、通常の防火防災訓練に留まらない工夫を凝らした訓練を重ねています。

【活動内容】

１　地域合同防火防災訓練及び自治会単独防火防災訓練

地域合同防火防災訓練を年２回実施しています。これは、大規模震災発生時には、自分たちの自治会だけではなく近隣住民同士の協力が不可欠になるという考えに基づいたものです。自治会の枠を超えて、近隣の町会・自治会から多くの住民が参加し、住民同士の顔の見える関係作りから始め、地域の防災力向上に一体となり取り組んでいます。小型ポンプ合同訓練、消火及び応急救護訓練等を行う上では、自治会単位で保有している防災倉庫の位置や格納されている資器材の内容、消火栓や防火水槽の位置などの情報交換を行い、操作方法のみに留まらない様々な形での防災行動力強化を図っています。

自治会単独での防火防災訓練も実施しています。「全員がリーダーとしての行動力を身に付ける。」をテーマとし、大規模震災発生時の初動対応力の充実と強化を図ることを目標としています。初動対応で最も重要となるのは、住民の安否確認を行うことであり、他人任せにするのではなく一人ひとりが迅速かつ確実な安否確認方法を習得するため、日頃から周囲の住民と風通しの良い関係を築くための機会として、防火防災訓練の機会を活用しています。

２　地域連携

近所・共助の精神で同じ危険地域に住む近隣町会と合同防火防災訓練や震災救援所運営訓練、その他合同活動等を行っています。

近隣町会と協力して合同で行った広域避難場所への避難訓練は、関係機関の協力のもと、日中と夜間に行いました。

日中と夜間では、住民の年齢層なども変わり、参加した住民同士が新しい関係を築くことが出来、更なる防災行動力の強化に繋がることが期待できました。また、避難経路の見え方や所要時間が変わる事の確認をしています。自治会住民を安全に避難場所へ誘導する際の検討事項が確認できました。

被害調査・安否確認チェック板

地区合同訓練（Ｄ級ポンプ訓練）

地道に取り組む防災の絆

優良賞　王子本町二丁目町会（北区）

【経　緯】

北区王子本町二丁目町会は、昭和 25 年に設立され、地域内は木造住宅密集地域で坂道が多く道路狭隘のため、首都直下型地震発生時には、火災や家屋の倒壊により甚大な被害が予想されている。町会では災害対策本部を組織し、自主的に設置した防災倉庫に町会で購入した資機材を保管している。また、女性だけの D 級ポンプ消火隊「ファイヤーレディース」を結成し定期的に訓練を実施している。

【活動内容】

1　平成 21 年 9 月、日中の男性が少ない時間帯の災害に女性で対応しようと、女性だけの D 級ポンプ消火隊「ファイヤーレディース」を結成し、年 3 回の防災訓練や東京消防庁総合震災訓練時の遠距離放水訓練に参加するなど、女性が防火防災活動の担い手として活躍している。

2　平成 23 年に本町会の呼びかけにより、王子第二小学校の学区内の町会と連携し、地域防災協議会を立ち上げ、消防署、消防団、区役所、警察署、事業所と連携した各種体験型防災訓練と避難所運営訓練を実施している。本年で 6 回目となり、毎年約 500 名が参加している。

3　平成 25 年 10 月に、町会独自で防災倉庫の設置計画を策定し、毎月第三日曜日に町会で実施している「古紙回収活動」の収益金を活用して設置した。倉庫内には、スタンドパイプ、組み立て式担架、レスキューセット及び発動発電機が備えてあり、年 3 回実施する訓練では、消防団と連携して取扱い訓練を行っている。

4　防災部が中心となり、町会に登録している災害時要援護者 50 名に対し、定期的な訪問、電話連絡、ポストの確認を実施している。また、地域の安全、安心のために、お祭りの警戒、年末年始の夜警、火災予防運動時の防火防災診断に積極的に取り組んでいる。

ファイヤーレディースの放水訓練

地域防災協議会合同の炊き出し訓練

住民ファースト！
～地元企業の働きかけによる町会との応援協定～

優良賞　**堀切四丁目北町会　堀切四丁目中町会　ミヨシ油脂㈱（葛飾区）**

【経　緯】

木造住宅密集地域である堀切地区で長年営業している地元企業からの働きかけにより、平成30年1月、堀切四丁目北町会、堀切四丁目中町会及びミヨシ油脂㈱東京工場の三者による災害時応援協定を締結した。本協定は、以前から合同で防災訓練を行う等の良好な関係を築いてきた三者により協議されたもので、震災時や大規模火災発生時に町会員が工場の所有する消火用水や資器材を使える点や、工場自衛消防隊と連携して活動できるなど、地域住民を第一に考えた内容となっており、企業にとってもイメージの向上や安心度が向上する点から、相互にメリットのある関係を構築することができた。

【活動内容】

1　工場の特性を活かした実効性のある協定内容を目指し、次の応援項目を協定に盛り込んだ。

町会側の応援内容

(1)　スタンドパイプ等を活用した町会員による消火活動

(2)　町会員による炊出し

企業側の応援内容

(1)　自衛消防隊による防火水槽、可搬ポンプを活用した消火活動

(2)　工場敷地を活用した緊急時の避難場所、救護所としての用地提供

(3)　津波、河川氾濫発生時における、高所避難場所としての事務所棟の提供

(4)　風呂及びシャワーの提供

(5)　給水拠点としての用地提供

(6)　救助資器材（フォークリフト、工具類等）の貸出し

(7)　自社製品である洗剤・石鹸の提供

2　協定締結式終了後に、町会消火隊と自衛消防隊が連携した訓練を実施した。震災により消火栓（スタンドパイプ）が使えない想定で、公園の防火水槽に部署した町会員による消火活動と並行して、工場用水を防火水槽へ充水する消火訓練を行った。

3　上記訓練の検証を踏まえて、後日、大規模な合同防災訓練を実施した。前回の訓練に追加して、葛飾区役所の水陸両用バギーによるガレキを乗り越えてのホース延長や、同区役所のまちかど防災訓練車への放水訓練を行い、テレビ局4局、新聞社1社のマスコミの取材を受けた。

また、隣接会場では総合防災訓練を実施し、雨天にもかかわらず親子連れ等、約1,000名の訓練参加者が集まった。

水陸両用バギーによるホース延長

市民消火隊と自衛消防隊による放水

ろう学校と近隣自治会等が一丸となって取り組んだ地域の防災対策

優良賞　東京都立立川ろう学校（立川市）

【経　緯】

東京都立立川ろう学校は、昭和 26 年に開校した多摩地域唯一のろう学校であり、聴覚障害教育専門の歴史ある学校である。幼稚部、小学部、中学部、高等部からなり、児童・生徒の数は約 200 名で、地域交流や防災教育にも力を入れている。

毎年の総合防災教育や宿泊防災訓練の実施をはじめ、健常者と障害者の垣根を越えてお互いの存在を尊重し認め合い、協力するという共助の理念に基づき、近隣自治会との合同防災訓練や立川消防少年団との交流会を積極的に実施している。

【活動内容】

1　近隣自治会との合同防災訓練

学校の近隣自治会との連携を深め、近隣自治会（第二団地自治会、睦会等）、立川市消防団、交通安全協会、赤十字奉仕団等と合同で、総合的な防災訓練等を実施して、学校と近隣自治会の顔の見える関係構築を図っている。

また、立川ろう学校で実施する宿泊防災訓練にも、立川市第二団地自治会の住民に参加してもらい、お互いに「どういう所を補ってもらいたいのか、どういう手伝いができるのか」を自治会長同席のもとに検証し、意志の疎通を図っている。

2　総合防災教育への参加

立川ろう学校とともに上記合同防災訓練を実施し、参加する生徒に対し、交流を深めるとともに積極的に指導している。さらに、立川ろう学校が実施している宿泊防災訓練において、自治会員も積極的に参加し、生徒とともにジャッキを使った救助救出訓練や応急救護訓練のほか、炊き出し給食訓練も実施し、協力して知識や技術の練磨に努めている。

また、6 月に実施する立川ろう学校の総合防災教育の一環として実施した防災訓練に、自治会として参加し、その前後に実施される防災対策教育委員会に第二団地自治会防災対策委員会会長が参画している。各行事において、自治会と生徒が顔合わせを実施し、いざというときに活動しやすい協力体制の構築に努めている。

3　校庭を避難所として活用するための取り組み

休日夜間等に地震が発生した場合、立川ろう学校は無人となるため、校庭を近隣住民の避難場所として活用できるよう立川ろう学校と事前に取り決めるとともに、校庭の開門の鍵を自治会に預けて管理している。

近隣自治会の助け合い避難訓練

手話による訓練指導

まちかど防災訓練に参加しよう！

「まちかど防災訓練」は、皆さんのご自宅近辺の路上など、身近な場所で初期消火訓練や救出救助訓練をご近所同士で行う実践的な訓練です。少ない人数、短時間で実施できますので、ぜひ参加してください!

初期消火訓練

●スタンドパイプ

消火栓を活用
動力不要で簡単!

◆消火栓等に差し込み使用
◆１分間に１００リットル以上の放水が可能
◆軽量で操作が簡単
◆保管場所：町会・自治会の会館や防災倉庫

●D級可搬消防ポンプ

断水時でも
水源利用で活躍!

◆防火水槽等から吸水し使用
◆１分間に１３０リットル以上の放水が可能
◆少人数でも操作可能
◆保管場所：町会や消防団の倉庫／学校など

まちかど防災訓練の効果

- ご自宅周辺での災害対応のイメージができる
- 身近にある消火資器材の取り扱いを学べる
- 隣近所で助け合う協力体制ができる
- 自分たちの地域は自分たちで守る意識ができる

●消 火 器

もっとも身近な
消火資器材!

安全な位置で
火元に向けて放射します。

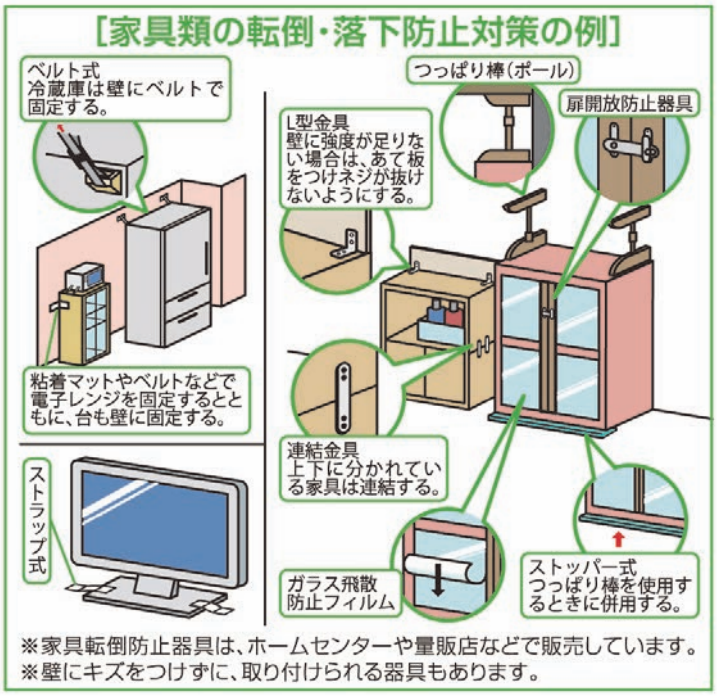
避難路を確保します。

地震に備えて今すぐしよう！　家具類の転倒・落下・移動防止対策！

平成30年9月、北海道胆振東部地震が発生し、最大震度7を観測しました。6月には、最大震度6弱を記録した大阪府北部を震源とする地震も発生しています。これらの地震では、倒れた家具などにより多くの方が負傷しており、亡くなった方もいます。

地震はいつやって来るか分かりません。
今すぐ家具転対策を行い、地震に備えましょう。

北海道胆振東部地震の室内被害（安平町　震度６強）



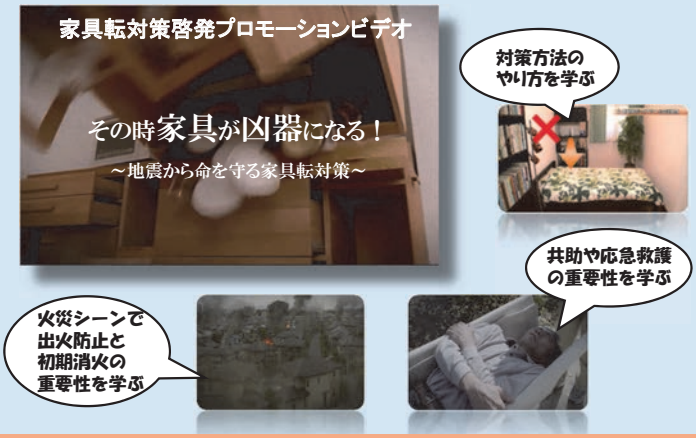
対策器具によって効果も違います。
適切な対策をしましょう！

対策器具の効果（東京消防庁調べ）

家具転対策の重要性が分かる！！

家具転対策啓発DVDのご案内

家具転対策の重要性はもちろん、自助・共助の重要性が分かる動画を作成しました！
目的に応じた4つの動画（戸建住宅ドラマ編・マンションドラマ編・15秒CM編・取付指導編）で構成されています。



防災訓練などにも活用できます！

ドラマ編では、家具転対策の重要性だけでなく、初期消火や、応急救護、在宅避難などの重要性も訴える構成になっており、防災訓練の目的やモチベーションに繋がるシーンも多くあります。

実際の防災訓練での活用風景

家具転対策DVDを使用したい場合は、お近くの消防署にお問い合わせください。
動画は、東京消防庁ホームページにある家具転対策ページでも視聴できます。
家具転対策ページは、『東京消防庁　家具転』で検索するか、右のQRコードでアクセスできます。

もしもを いつも

入館無料で体験できる!

本所 立川 池袋 防災館

本所・立川・池袋都民防災教育センター
Honjo・Tachikawa・Ikebukuro Life Safety Learning Center

よし！体験だ!!

池袋 夜の防災館スタート!
夜間の発災を想定した体験ができます!

本所防災館

場所 東京都墨田区横川4-6-6
交通 JR総武線・東京メトロ半蔵門線「錦糸町駅」徒歩10分／京成押上線・都営浅草線・東武スカイツリーライン・東京メトロ半蔵門線「押上駅」から徒歩10分
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 水曜日・第3木曜日（国民の祝日に当たる場合は翌日）年末年始（12月29日～1月3日）

http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-hjbskan/
TEL.03-3621-0119 FAX.03-3621-0116

立川防災館

場所 東京都立川市泉町1156-1
交通 バス JR立川駅北口（1番乗り場）より「立川消防署」下車すぐ 多摩都市モノレール「高松駅」より徒歩15分
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 木曜日・第3金曜日（国民の祝日に当たる場合は直後の平日）年末年始（12月29日～1月3日）

http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ttbskan/
TEL.042-521-1119 FAX.042-523-5119

池袋防災館

場所 東京都豊島区西池袋2-37-8
交通 池袋駅（西口・メトロポリタン口）から徒歩5分
開館時間 午前9時～午後5時（金曜日は午後9時まで開館）
休館日 火曜日・第3水曜日（国民の祝日に当たる場合は翌日）年末年始（12月29日～1月3日）

http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ikbskan/
TEL.03-3590-6565 FAX.03-3590-6843

公益財団法人 東京防災救急協会
Tokyo Disaster Prevention & Emergency Medical Service Association

防災は 日頃の備えの 積み重ね
平成30年度東京消防庁防災標語　作者 柏木 こころさん （三鷹市在学）

東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT
東京消防 検索
http://www.tfd.metro.tokyo.jp

METROPOLITAN VOLUNTEER FIRE CORPS TOKYO
自分にもできるかも。
首都東京を守ること。
消防団に入ろう!
特別区消防団への
入団に関するお問合せは
0120
119-588
午前9時から午後5時まで
（土・日・祝日を除く）
入団資格
・18歳以上の健康な方
・23区内に居住・勤務・通学している方
消防団員募集
一緒に活動してくれるあなたを待ってます。
東京消防庁
お問合せはフリーダイヤルまたは最寄りの消防署まで
東京消防団
https://tokyo23city-syobodan.jp/
リサイクル適性Ⓐ
1900-300918

あなたの力が必要です
TOKYO F.D.V.
東京消防庁災害時支援
ボランティア
募集中
震災等発生時に消防署の
支援を行う専門ボランティアです。
東京消防庁災害時支援ボランティアに
関することは、東京消防庁管轄の
消防署にお問い合わせください。
防災とボランティア週間
毎年1月15日～21日
1月17日は防災とボランティアの日
東京消防庁
東京消防
検索
http://www.tfd.metro.tokyo.jp
TOKYO 2020
TOKYO 2020
リサイクル適性Ⓐ
1911-3012-04